

認識動詞「思う」の構文パターンと対応する中国語訳

Construction Pattern of Cognitive Verb "omou" and its Corresponding Expressions in Chinese translation

王 会欣
Wang Huixin

摘 要

The cognitive verb "omou", in Japanese, is one of the most frequently used expressions when a cognitive subject expresses thinking, evaluation and judgement. Various translations such as "xiang" "jue de" "ren wei" and "gan jue" are applied to the Chinese translation of "omou." This research targets the Japanese cognitive verb "omou" by first classifying the case structure and subordinate clause of "omou" regarding the differences in meaning and function of "omou" and then clarifying how Chinese expressions correspond to them. The research shows that many usages of "omou" in Japanese correspond to the Chinese "xiang". In addition, it is observed that "omou" often corresponds to "juede" in Chinese. On the other hand, "omou" has the function of consideration for the listener when it's not translated. On this occasion, it will not be translated in Chinese, because Chinese does not contain the predicate that expresses consideration for the listener.

キーワード：認識動詞 思う 構文パターン 中国語 対応関係
Keywords : cognitive verb omou construction pattern Chinese correspondence relation

1. はじめに

日本語の「思う」は認識主体の思考・評価・判断などを表す場合に、頻繁に使われる表現の一つである。例(1)～(3)のように「思う」の中国語訳には“想(思う／考える)” “觉得(思う／感じる)” “认为(思う／考える)” “感觉(思う／感じる)” など様々な訳語が当てられる。

- (1) 彼の振る舞いを不思議に思う。(作例)
(我~~觉得~~/~~感觉~~/~~?认为~~/~~*想~~他的行为不可思议)
- (2) 彼のことを思うと、心が痛くなる。(作例)
(一~~想到~~/~~*觉得~~/~~*认为~~/~~*感觉~~他我就伤心)

(3) 彼が殺人犯だと思う。(作例)

(我想／觉得／认为／?感觉他是杀人犯)

こうした異なる中国語訳は、「思う」のどのような意味・機能の違いによって生じるのだろうか。本研究では日本語の認識動詞「思う」を対象とし、「思う」の表す意味・機能の違いについて、その意味・機能を支える構文パターンを取り出した上で、中国語の表現がどのように対応するのかを明らかにする。

2. 研究対象と研究方法

本研究は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ データバージョン 2020.02)」の実例を観察し、「思う」にどのような構文パターンがあるのかをまず明らかにする。その上で、日本語の「思う」が実際にどのように訳されているかの参考にするため、「『李光赫編：日中文学作品対訳コーパス』現代日本小説100部篇」を利用し、「オモウ」をキーとし、ヒット数の上から順に500例を収集した。

以下では、まず、認識動詞「思う」について、格体制の違いに基づき、大きく「ヲ思う」「ヨウニ思う」「ト思う」という3つの構文パターンを取り出す。そして、それぞれをさらに共起する語の違いによって細分類し、それぞれの構文の特徴を記述する。その上で、これらの下位構文タイプに中国語がどのように対応しているかを見ていく。

なお、本研究では基本形の「思う」だけを研究対象とし、使役形の「思わせる」、可能形の「思える」、受け身・自発形の「思われる」は研究対象としないこととする。

3. 「思う」が構成する構文パターン

ヲ格の補語を取る、「～ヲ思う」にはヲ格の抽象名詞のみを補語にとる「知的認識型¹⁾」と形容詞と組み合わせる「感情評価型」の2つがある。

2つ目の、「～ヨウニ思う」には、「N ヲ N ノヨウニ思う」と、「節ヨウニ思う」の形式がある。ここには、事物Aの説明に、他の事物Bとの類似性を用いて表現する「比喩的認識型」と、認識主体の不確かな判断を下す「不確かな断定型」がある。

最後に、「～ト思う」の分類について、森山(1992)を参考にし、大きく2型に分ける。森山(1992)は文末の「と思う」には「不確実表示用法」と「主観明示用法」と指摘している。「不確実表示用法」の「と思う」の引用節の内容は、「と思う」を付加しない場合には確実なことを表すことになる(森山 1992:106・107,「先方は三時に来ると思います」)。これに対し、主観明示用法での「と思う」は、主観を明示するだけであって、「と思う」を取り除いても知的な意味での質的な違いは

ない(森山 1992:110,「日本の今の医療制度は間違っていると思う」)。「と思う」の有無によって、文の質的な意味が変わるかどうかというこの森山(1992)の基準に従い、「と思う」を大きく「不確実表示型」と「主観明示型」に分ける。その上で、本研究は引用節の構造形式と意味に着目して、「不確実表示用法」をさらに「中立的な判断型」、「回想型」、「主観明示用法」を「蓋然性判断型²」、「評価型」に分ける。また、「～しようと思う」と「～したいと思う」は、ひとまとまりの表現として使われているため、これを「～と思う」の「主観明示用法」からは区別して「意志・希望型」に分けた。そして、公的な場合やフォーマルの場面において話し手のなんらかの行為を遂行する意志を表すものは「遂行報告型³」として取り出した(林 2007:101)。

以上述べた分類を表1にまとめる。

表1:「思う」の構文パターン

分類		例文	
～ヲ思う	知的認識型	そのことを思うと、臉が熱くなってくる	
	感情評価型	彼の振る舞いを羨ましく思う	
～ヨウニ思う	比喩的認識型	彼を家族のように思う	
	不確かな断定型	相談する余地があるように思う	
～ト思う	不確実表示型	中立的な判断	彼は教師だと思う
		回想	明日の会議は3時だったと思うけどな
	主観明示型	蓋然性判断	見間違いかもしれないと思う
		評価	彼女は綺麗だと思う
	意志・希望型		彼に謝りたいと思う
	遂行報告型		それでは発表させていただきたいと思う

以上のように、認識動詞「思う」の構文パターンを、格体制の違いに基づき大きく3つの構文パターンに分け、各大分類をさらに細かく分類して、合わせて10の下位分類を設けた。以下これらの下位分類の一つ一つについて説明していく。

3.1 知的認識型 [抽象名詞/人名詞ヲ 思う]

知的認識型とは、「彼の不幸を思う」のように、認識主体が認識対象に対する認識活動を行うタイプの構文である。この構文の特徴はヲ格の名詞が抽象名詞であるということである(奥田 1978-72[1983:97])。この構文パターンは、他に「考える、考察する、検討する」などの動詞によって構成される。

(4) 彼の恐怖を思うと、同情してしまう。

名詞が単独でヲ格の対象となる場合には、例(4)のような抽象名詞の他に、例(5)のように、人名詞が対象に立つ場合がある。「恋人のことを思う」のように、認識主体が認識対象に対してある種の気持ちや感情を抱きながら認識活動を行うということを表している。ヲ格に立つ名詞の典型は人名詞であるが、「故郷、祖国、実家」のような社会的組織の名詞の場合もこの意味を表す。この構文における「思う」は、「偲ぶ、心配する、案じる」といった感情的態度を表す動詞に近い。

(5) 彼のことを思うととても眠れない。

(6) よく故郷／母国／実家のことを思う。

3.2 感情評価型 [名詞ヲ 感情評価の形容詞-ク 思ウ]

感情評価型とは、「彼のことを羨ましく思う」のように、認識主体の対象への感情を表しながら、評価もするタイプの構文である。この構文の形式上の特徴は、感情評価を表す形容詞・形容動詞と共起することである。「思う」のほか、「感じる」という動詞は「物足りなく／面白く感じる」、「見る」という動詞は「甘くみる／重くみる」のような評価的な態度を表す場合、この構文に用いられる。

(7) 私はそれをとても誇らしく思う。

3.3 比喩的認識型 [名詞Aヲ 名詞Bノヨウニ 思ウ]／[節-ヨウニ 思ウ]

比喩的認識型は「彼女を満開の花のように思う」のように、認識対象の様子と、認識主体の想像世界のモノや事象との間に類似性を見つけて対応付けて認識するタイプである。対応付けられる2項は意味的に別カテゴリーのものである点が特徴的である(森山 1995)。比喩・比況型の「名詞Bノヨウニ」「節-ヨウニ」の内容は反事実的なものである。これは、引用節が不確かな内容である「不確かな断定型」と区別される点である。例(8)のような構文パターンは他に「喩える、みなす、なぞらえる」などの動詞によって構成される。例(9)のような構文パターンは「節-ようだ」に置き換えられる。

(8) 私は、田中先生を父のように思う。

(9) 亡くなった彼が目の前にいるように思う。

3.4 不確かな断定型 [(状態性述語文)節-ヨウニ 思ウ]

不確かな断定型とは、認識主体の不確かな、確信度が低い判断を表すタイプのものである。引用節には「ない、ある、ている、形容詞」などの状態性の高い形式が現れる。「気がする、感じる、察する」などのような動詞もこの構文を構成する。

(10) あまり違いはないように思います。

(11) それから数年というもの、私は研究に熱中していたように思います。

その一方で、本節で見る認識内容を表す「～ように」の節は、次節で見る「～と」節に比べると、より不確かな、または婉曲的な断定の意味を表す(国立国語研究所 1951:277)。また、このような意味の違いが生じる理由について、前田(2006)は次のように述べている。

「ように」は、単に「と」と置き換えられるものではなく、「ようだ」という「推定」あるいは「徴候の存在のもとでの押し量り(仁田義雄 1991)」「実証的判断」(三宅知宏 1994)という意味を含んだ引用であると考えられる。そして、「ように+思考動詞」全体で「ようだ」という推定表現と非常に近い意味を表し、「ように」が持つ婉曲性や不確かな断定という意味もここに含まれる「ようだ」から生じるものだろう

— 前田(2006:52)

3.5 不確実表示型 [(名詞/動詞述語文)節-ト 思う]

本節でいう不確実表示型とは、認識主体が引用節の内容について確実なことであると断言できず、「と思う」を用いて、不確実な認識を表しているタイプのものである。引用節の内容にはモダリティ形式や評価性の述語が入れず、評価性に中立な名詞述語文や動詞述語文が典型的である。「不確実表示型」の中には、「中立的な判断」「回想」の2つの下位分類を設けた。「中立的な判断型」は認識主体が事態の真偽に対して断言できず、「と思う」を用いて不確実な判断を下す(「彼は学生だと思う」)。「回想型」は認識主体が自分の記憶について断言できず、「と思う」を用いることで不明瞭な記憶を提示する(明日の会議は3時だったと思うが)。

3.5.1 中立的な判断型 [(名詞/動詞述語文)節-ト 思う]

中立的な判断型は、「かれは教師だと思う」のように、引用節の内容が断定(物事にはっきりした判断を下すこと)であり、「と思う」を付加して、認識主体の評価性に中立的な判断を表す構文タイプである。引用節の内容は名詞述語文の場合が典型的な形式だと考えられる。動詞述語文の場合、「来る、行く、食べる」のような評価的な態度を含まない動詞も引用節に来る。「間違ふ、違ふ、出来る」のような評価的な動詞述語文は引用節に用いられない。この構文における「思う」は「考える、推測する、推量する」といった判断を表す動詞に近い。

(12) この男が犯人だと思う。

(13) 彼は来ると思う。

3.5.2 回想型 [(過去形の述語)節-ト 思う]

回想とは、「会議は明日の3時だったと思うが」のように、現在自分の記憶にある不明瞭で曖昧な過去の体験や過去に覚えたことを思い出すことである。過去形の述語文が引用節に現れ、「と思う」を使って曖昧な記憶を提示するタイプである。「覚える、記憶する、想起する」などの動詞もこの構文に用いられる。

(14) たしか大学時代だったと思う。

3.6 主観明示型 [(蓋然性のモダリティ形式／評価性を含む諸形式)節-ト 思う]

主観明示型は、引用節の内容が個人的な意見あるいは主観的な評価であり、「と思う」が主観を明示する機能を果たしているタイプである。引用節には蓋然性のモダリティ形式と評価性の諸形式が用いられる。引用節の構造形式と意味の違いに基づき、「主観明示型」をさらに「蓋然性判断型」と「評価型」に分ける。「蓋然性判断型」は事態の可能性に対して、個人の判断を明示することを表す(明日雨が降るかもしれないと思う)。「評価型」は物事の価値に対して、個人的な意見を述べることを表す(この小説は面白いと思う)。

3.6.1 蓋然性判断型 [(蓋然性のモダリティ形式)節-ト 思う]

蓋然性判断型とは、「彼は来るに違いないと思う」のように、「命題内容をなしている事態が、どのくらいの確からしさをもって成り立っているかを捉えたものである(森山 2000:95)。本研究でいう蓋然性の判断とは「ト思う」の引用節に「に違いない」「かもしれない」などの認識モダリティ形式を含むものである。「考える、推測する、推量する」などのような動詞もこの構文を実現している。

(15) お父さんが来るかもしれないと思います。

3.6.2 評価型 [(評価性の形容詞・評価のモダリティ形式など)節-ト 思う]

評価型とは、「この服はきれいと思う」のように、認識者が対象を認識しながら、プラスマイナスの価値を対象に見出すことを表す(志波未公刊)タイプである。認識主体が引用節の内容に対する真偽・可能性判断を下すのではなく、個人的な評価、価値判断を下すことを表す。形式的には、引用節が評価性の形容詞述語文／動詞述語文や、評価性の形容詞・形容動詞に修飾される名詞述語文、「ほうがいい」「すべきだ」などの評価のモダリティ形式を持つ場合を評価型とした。この構文パターンは他に「評価する、評定する、判じる」などのような動詞によっても構成される。

(16) この本は面白いと思います。

3.7 意志・希望型 [意志動詞-ヨウ／タイト 思う]

「しようと思う」と「したいと思う」はひとまとまりの表現として使われていると考えられる。孫(2011)は「シタイト思う」・「シヨウト 思う」における「思う」は、聞き手への伝達性が最も大きな機能であると指摘している。すなわち「ト思う」を用いることによって、話し手の意志・希望をあらさまに表出するのを避け、自分の思考内容として提出することで、「和らげ」という聞き手への配慮の表現となる。「しようと思う」と「したいと思う」に相当する表現は「～するつもりだ」「～ことを希望する」「～ことを望む」などがある。

- (17) 来週の土曜日イチゴ狩りに行こうと思います。
- (18) 日本に留学したいと思いますが、まだ日本語に自信がありません。

3.8 遂行報告型 [意志動詞-タイト思ウ]

遂行報告型は話し手がその行為を実行するに当たって、「～したいと思う」の表現を用いて、行為の遂行を聞き手に告知すると同時に、話し手の発話行為自体が遂行行為となることを表す(林 2007:101)タイプである。この構文パターンにおける「～したいと思う」と相当する別の表現は「発表を始めます」のような動詞のスル形である。

- (19) それでは、発表を始めさせていただきたいと思います。

4. 「思う」の各分類と中国語との対応関係

3 節では、「思う」の構文パターンの意味と形式を説明した。本節はそれぞれの下位分類について、どのような中国語が対応するか、どのような中国語が対応しないかを記述していく。

4.1 知的認識型 [抽象名詞/人名詞ヲ 思ウ]

まず、対訳コーパスの収集したデータには、知的認識型の用例は 12 例あった。すべて例(20)と(21)のように「抽象名詞/人名詞ヲ 思ウト」の形式で従属節に現れていた。この場合、「～ヲ思ウト」は「～ヲ思ッタ」に相当し、中国語訳では“想(抽象名詞:考える) / (人名詞:懐かしむ、心にかける、会いたいと願う)”に結果補語“到”を後続させる必要がある。つまり、「～ヲ思ウト」は“想”と結果補語“到”の組み合わせ全体で思考達成を表している。一方、BCCWJ の用例を観察すると、「～ヲ思ウト」の形式以外に、例(22)と(23)のような「思っている(終止)」「思いながら」の形式も確認された。これらの中国語訳は“想”のみ((22))、あるいは進行形のマーカー“着(テイル)”をつけて“着想”と翻訳されている((23))。この場合は思考達成を含まず、思考過程のみを表している。

一方、「思う」の他の中国語訳語は、この「知的認識型」には用いられない。“觉得”“认为”“感觉”は「該当動詞+感情評価形容詞」「該当動詞+節」の構造をとり、「彼女の不幸を思う」のように、抽象名詞単独と組み合わせることがない。

- (20) 少女の不幸を思うと、突きはなすのも悪い気がする。(田中芳樹『創竜伝』第1巻)
(但是一想到这个…少女的不幸, 置之不理岂不是更难过。)
- (21) …羊博士のことを思うと心が痛んだ。(村上春樹『羊をめぐる冒険』)
(想到…羊博士, 我很有些不忍。)
- (22) 一般人は、あなたと同じことを思っています。(Yahoo!知恵袋)
(筆者訳: 一般人都和你想的一样)

- (23) 私はそんなことを思いながら、燃え盛る炭火を眺めていた。(大崎善生『将棋の子』)
(筆者訳: 我一边想着这些, 一边眺望着熊熊燃烧的炭火。)

4.2 感情評価型 [名詞ヲ 感情評価の形容詞-ク 思ウ]

例(24)(25)(26)「人物を好ましく思う、味覚を懐かしく思う、周りを羨ましく思う」のような日本語の表現は、中国語では形容詞(好ましい/懐かしい/羨ましい)に対応する動詞が用いられ、“欣赏其人(人物を好む)”、“怀念味道(味覚を懐かしむ)”、“羡慕身边的人(周りを羨む)”のように表現される。中国語では「思う」を用いた構文を使わずに、形容詞性動詞によって、直接的に訳出する傾向が見られた。

一方、日本語にも「好む、懐かしむ、羨む」などの動詞が存在するわけだが、「名詞ヲ 感情形容詞ク 思ウ」という構文が生産的に用いられているのはなぜだろう。今後稿を改めて論じたい。

- (24) そして彼女自身にしたところで、綿谷ノボルという人物を決して好ましく思っているわけではない。(村上春樹『ねじまき鳥』)

(就她本身而言, 也绝对不欣赏绵谷升其人。「綿谷ノボルという人物を好まない」)

- (25) 老提督は、ヤンやユリアンといっしょにつまんだスタンドの素朴な味覚をなつかしく思うのだ。(田中芳樹『銀河英雄伝説』02 野望篇)

(看到杨和尤里安两人的生活方式, 他不禁怀念起那种朴实温馨的感觉。当然, 这种事他绝对不会向别人吐露的。「スタンドの素朴な味覚が懐かしい」)

- (26) やっぱり周りを羨ましく思います。(Yahoo!知恵袋)

(筆者訳: 还是羡慕身边的人。「やっぱり周りを羨む」)

例(27)、(28)は対訳コーパスの訳文であるが、「思う」が訳されていない。これらの例では、中国語の“觉得(感じる)”“感觉(感じる)”を用いて訳しても自然な表現であると思われる。これは“荣幸(名誉)”“抱歉(申し訳ない)”が動詞ではなく形容詞(“很”で修飾できかつ目的語を取らない)であるためだと考えられる。中国語の“觉得”“感觉”は目的語に動詞を取らずに、感情評価の形容詞が現れ、認識主体の感情評価を表すことができる。

ところで、「思う」の他の中国語訳“想(考える)”や“认为(思う/考える)”はこの構文には用いられない。まず、構文上“想”“认为”は感情評価の形容詞と共起しない。そのうえ、例(27)、(28)のような例文は「感じる」に言い換えられる。認識主体の内部から湧き上がる、より直接的な感情表現だと言える。“想”“认为”は「感じる」とは言い換えられず、より知的な認識を働かせるプロセスであると思われる。

- (27) 「小官にとって最後の戦闘が、名だたるヤン提督あいてのものであったことを名誉に思う。軍事革命万歳」(田中芳樹『銀河英雄伝説』02 野望篇)

(“作为一个军人, 能与这样高明的对手较量, 实在是一种荣幸。救国军事委员会万岁!”「最後

の戦闘がヤン提督相手のものであったことが名誉だ)

筆者訳: 实在**觉得/感觉**荣幸

(28) 母さんや皆に迷惑ばかりかけてしまったことを、**申し訳なく思う**の。(乙一『きみにしか聞こえない CALLING YOU』)

(总是让母亲呀其他人呀难过, 我实在很**抱歉**。「母さんや皆に迷惑ばかりかけてしまって本当に申し訳ない」)

筆者訳: 我实在**觉得/感觉**抱歉

以上の分析を見てわかるように、「名詞ヲ 感情形容詞ク 思う」という構造の「感情評価型」は中国語訳には2つの翻訳傾向が見られた。1 つ目は、中国語に日本語の形容詞に対応する動詞がある場合、その動詞のみを使用し、「思う」を無翻訳にする場合であった。2 つ目は、中国語に日本語の形容詞と対応する形容詞がある場合、「思う」を“觉得”“感觉”を用いて翻訳する可能性である。

4.3 比喩的認識型 [名詞Aヲ 名詞Bノヨウニ 思う]/[節-ヨウニ 思う]

比喩的認識型の例(29)(30)のような「Aヲ Bノヨウニ 思う」の構文は中国語に訳すと「把 A 当作 B」という構造を取る。中国語の“当”は日本語の「思う」に相当し、この構文は日本語の「Aヲ Bト 見ナス」に近い。中国語の動詞は“成”“作”“为”などの結果補語を後続させ、かつ2つの名詞句をとる場合、原則として“把”構文が要求される。一方、同じ比喩の意味でも、例(31)(32)の「~節ヨウニ 思う」の場合は、対訳コーパスでは「思う」は無翻訳になっている。しかし、実際体験したことに基づいた認識を表す“觉得”“感觉”をつけても自然な表現であるのは、感情評価型と同様である。

このことについて中国語のコーパスを調べたところ、“像/好像”を用いて比喩を表す場合、認識対象(の様子)が主語の位置に立つ文で表現するのが一般的であった。つまり、「~が~ようだ」の形式で表し、認識動詞や認識主体が出現しない方が普通である。「比喩」というのは、そもそも認識対象と比べる物を結びつけるのは話し手であるため、あえて“觉得(思う)”などの表現を付ける必要がない可能性が考えられる。

(29) 安部さんを神様のように**思っ**てきた患者さんもいる。(櫻井よしこ他『現代』)

(筆者訳: 有的病人已经**把**安部医生**当作**上帝了。「患者さんは阿部さんを神様と思っている」)

(30) その時代、町内の子供たちは道着の帯をまるで勲章のように**思い**、(Yahoo! ブログ)

(筆者訳: 在那个年代, 镇上的孩子**把**柔道衣服的带子**当作**一种勋章「子供たちは道着の帯を勲章とみなす」)

(31) その雰囲気は予備校というよりも、学校に近かったように**思う**。(乙武洋匡『五体不満足』)

(一点儿也没有临时补习的感觉, 好像是在正规学校里读书一样。「その雰囲気は予備校というよりも、学校に近かったようだ」)

(筆者訳: 我觉得/感觉好像是在正规学校里读书一样)

- (32) 吐き出す息のひとつひとつに、陽気な音符が踊っていたように思う。(田中芳樹『銀河一外伝3』千億の星、千億の光)

(每口突出的气息, 都像活泼的音符在舞动……「……陽気な音符が踊っていたようだ」)

筆者訳: 我觉得/感觉每口吐出的气息都像活泼的音符在舞动……

一方、「思う」の他の中国語訳“想”や“认为”はこの構文には用いられない。例(31)と(32)は認識主体が実際に知覚・体験したことを想像世界の事態と結びつける表現である。例(31)を“想”もしくは“认为”に言い換えると、認識主体が実際に学校で体験したというニュアンスがなくなり、単に頭の中で「その雰囲気が学校に近かったらう」という想像を表すだけになる。

4.4 不確かな断定型 [(状態性述語文)節-ヨウニ 思う]

「不確かな断定型」の「～ように思う」は単に認識主体の感覚に触れただけに過ぎないものを表すことができる。以下の用例はすべて「～ような気がする」に言い換えられる。このような確信度の低い表現は中国語訳では“觉得(と考える)”“感觉(何らかの考えを持っている)”と対応している。「思う」の他の中国語訳“想(推量する)”や“认为(思う/考える)”はこの構文に用いられにくい。“觉得”“感觉”は、なんの根拠もなしにただ認識主体の感覚的直感でそのように感じるということと、ごく弱い根拠に基づき判断を下すことを表すのに対して、“想”と“认为”は何らかの事柄を根拠に、思考プロセスを経て下す判断を表している。つまり、例(33)のように認識主体が聞き手の振る舞いなどを根拠とし判断を下す場合であれば、“想”ないし“认为”を使えなくもない。ただし、その場合は日本語の「ように思う」による確信度の低さが感じられなくなる。

- (33) きみは、そのころのぼくに似ているように思う。(中島義道『カイン』)

(我觉得/感觉你和那个时候的我很像)

- (34) 今度の事件には関係してないように思う。(木谷恭介『京都石堀小路殺人事件』)

(筆者訳: 但我觉得/感觉这和这次事件没有关系。)

- (35) どちらも結果だけど、何か意味合いが違うように思う。(Yahoo!知恵袋)

(筆者訳: 虽然两者都是结果, 但总觉得/感觉意思不一样。)

4.5 不確実表示型 [(名詞／動詞述語文)節-ト 思ウ]

3 節で述べたように、不確実表示型はさらに「中立的な判断型」「回想型」に分かれる。以下、これらの下位分類ごとに中国語との対応を考察する。

4.5.1 中立的な判断型 [(名詞／動詞述語文)節-ト 思ウ]

中立的な判断型は「と思う」に相当する表現がないと話し手の明確な断定の意味になってしまいうため、中国語訳には、“想(推量する)”ないし“觉得(と考える)”、“认为(思う/考える)”のいずれかを用いる。例(36)は現在に対する判断であり、“想”“觉得”“认为”を用いている。例(37)のように引用節の事態が未来の場合、“想”を用いると、“想(希望する)”の意味(明日は雨が降ってほしい)を読み取りやすい。このような誤解が生じないようにするために、引用節には一般に未来や可能性を表す“会、可能”という助動詞を用いる。

一方、「思う」のその他の中国語訳である“感觉”は「なんとなくそのように思う」といった、単なる直感あるいは薄い根拠に基づく確信度の低い場合にしか用いられない。例(36)は、「なんとなく、オレは、あの先生はローマーの発声教師だと思う」であれば、「我感觉那位老师是罗马第一的发声老师」が自然に言えると思われる。

(36) オレは、あの先生はローマーの発声教師だと思う。(岡村喬生『ヒゲのオタマジャクシ世界を泳ぐ』)

(筆者訳:我想/觉得/认为那位老师是罗马第一的发声老师。)

(37) 明日は雨が降ると思う。(Yahoo!ブログ)

(筆者訳:我?想/觉得/认为明天下雨。)

(筆者訳:我想明天会/可能下雨。)

4.5.2 回想型 [(過去形の述語)節-ト 思ウ]

回想型の「思う」は中国語訳には“记得(記憶の中でそのように覚えている)”ないし“想(回想する)”を用い、“觉得/认为/感觉”では訳すことができない。“觉得/认为/感觉”を用いると、記憶から思い出すというニュアンスがなくなり、不確かなことに対する単なる推測と判断を表すことになる。“记得/想”は本来記憶の中に存在するものを引き出すことを表すのに対して、“觉得/认为/感觉”は新しい考えを生み出すことを表しているのだと思われる。

(38) すみません、明日の発表は田中さんだったと思いますが。(作例)

筆者訳:我想/记得明天是田中发表。(× 我觉得/认为/感觉明天是田中发表。)

(39) たしか2年前の夜だったと思いますが(作例)

筆者訳:我想/记得是两年前的晚上。(× 嗯, 我觉得/认为/感觉是两年前的晚上。)

4.6 主観明示型 [(蓋然性のモダリティ形式/評価性を含む諸形式)節-ト 思ウ]

先に述べたように、「主観明示型」はさらに「蓋然性判断型」と「評価型」に分けられる。次は、それぞれ中国語との対応関係を明らかにする。

4.6.1 蓋然性判断型 [(蓋然性のモダリティ形式)節-ト 思ウ]

例(40)から(42)の対訳コーパスの中国語訳では「と思う」を訳さない傾向が見られる。例(40)から(42)のいずれの用例の中国語訳にも“或许”や“应该”、“可能”のような「推量や可能性」を表す副詞が現れている。日本語では蓋然性を表す認識モダリティなどの表現に「と思う」をつけることによって、認識主体の判断を控えめに表現することになる。日本語では聞き手への配慮を述語表現で表すのに対して、中国語では聞き手への配慮を述語表現では表さない。よって、推量や可能性の副詞がある場合に敢えて認識動詞を使用しないのではないかと考えられる。逆に、“想”“觉得”“认为”ないし“感觉”が「推量や可能性」を表す副詞と共に用いられると、文が冗長になってしまう。

(40) たぶんその時君がすぐに来てくれたとしても俺にはどうしようもなかっただろうと
思うよ。(村上春樹『羊をめぐる冒険』)

(即便你那时马上赶来我或许也只能束手就擒。)(無翻訳)

筆者訳：？我想/觉得/认为/感觉即便你那时马上赶来我或许也只能束手就擒。

(41) 犯人としては大した影響はないはずだと思うんだが(東野圭吾『眠りの森』)
(照理对犯人来讲应该没什么影响才对。)" →(無翻訳)

(42) とても不確かで、見間違いかもしれないと思う。(乙一『さみしさの周波数』)
(总觉得虚幻飘渺,难以把握,极有可能是看错了。)" →(無翻訳)

4.6.2 評価型 [(評価性の形容詞・評価のモダリティ形式など)節-ト 思ウ]

引用節に例(43)と(44)のような評価的態度の節がくる場合、日本語の「思う」は中国語の“想/觉得”に対応する。日本語のこれらの評価態度的な節に対しては、「と思う」の有無は文全体の評価の意味にほとんど影響しないと言えるが、「と思う」を付加することによって、個人的な意見であることを示すことになると考えられる。つまり、森山(1992)の「主観明示用法」(「と思う」を除いても、質的な意味の違いが生じない)である。同様に、中国語でも“想/觉得/认为/感觉”を用いることによって、あくまでも個人的な考えであることを主張するようになる。こうした評価や価値付けの述語が引用節に現れる場合、日本語の「と思う」や中国語の“想/觉得/认为/感觉”は話し手の主張や評価が、自分に限定した考えであることを強調する機能を果たすと思われる。

例(43)は引用節に、「と思う」や“想”を付けないと、話し手は「性能もよく、乗り心地もいい車

であれば、値段も高いだろう」と認識し、「一般の人にとっては、高すぎる」と判断していることになる。ここに「と思う」や“觉得”をつけることによって、「他の人は知らないが、私にとって高すぎる」という意味合いが読み取れるのではないだろうか。

- (43) 「決して悪い車じゃないよ。性能もいいし、乗り心地もいい。たしかに自分で金を出して買うにはいささか値段は高すぎると思うけどね」(村上春樹『ダンス』)
 (那车绝不差劲。性能好，坐着又舒服。要是自己出钱买，价格还真有些高，我想。)
 (筆者訳：我觉得／认为／感觉价格还真有些高。)
- (44) やはり彼のものは彼とともに山へ返すべきだと思うんです。(森村誠一『密閉山脈』)
 (但还是觉得应该把这些东西和他一起葬回山里。)

4.7 意志希望型 [意志動詞-ヨウ/タイト思ウ]

例(45)から(47)の「しようと思う」と「したいと思う」は中国語の“想(希望する/～するつもりだ)”に対応しているが、(45)は「しようと思う」の組み合わせ全体で“想”に対応すると言えるのに対して、例(46)と(47)では「したい」でも「したいと思う」でも、どちらでも“想”に訳すことができる。つまり、例(46)は、「もっとまともな暮らしがしたい(真想过一种像样的日子。)」でも、「もっとまともな暮らしがしたいと思う。(真想过一种像样的日子。)」でも、いずれも“想”に対応する。これは日本語の「思う」と違い、中国語の“想”には「希望する」の意味があり、かつ聞き手への配慮が見られないためだと考えられる。これについて孫(2011)は、中国語の“想”は主に命題めあての表現であるのに対して、「思う」は命題に作用するだけではなく、聞き手めあての機能も持つと記述している。

「思う」の他の中国語訳“觉得”“感觉”“认为”はこの構文には用いられない。これは“觉得”“感觉”“认为”は「意志・希望」を表さないためである。

- (45) 「何らかの形で記録しておこうと思ったわけだよ。」(東野圭吾『悪意』)
 (“我想这种经验大概一辈子不会遇到，所以才想用某种形式把它记录下来。”)
- (46) もっとまともな暮らしがしたいと思う。(村上春樹『ダンス』)
 (真想过一种像样的日子。)
- (47) 私は、特に、三木が、犯人の眼つきについていったことも、重視したいと思います。
 眼に、その人間の特徴が一番よく出るものだからです。(西村京太郎『恐怖の金曜日』)
 (“我想特别注意一下三木对凶手眼神的解释，因为眼睛最能展现一个人的特征。”)

4.8 遂行報告型 [意志動詞-タイト思ウ]

例(48)や(49)のような公的でフォーマルな場面で、自分の意志や希望を控えめに表そうとするとき、「と思う」の付加は義務的になる。こうした「と思う」は、通常中国語訳には訳されない。中国語の“想(希望する、～つもりだ)”に訳されることもあるが、ニュアンス的には違いがある。

例(48)筆者訳2の場合は、“想”を用いると話し手の意志を聞き手に押し付ける印象になる。例(49)筆者訳1は、「田中さんに乾杯の音頭を頂戴する」ことは予定されたことであると読み取れるのに対して、筆者訳2の場合は、話し手がある場で臨時的に思いついたことのように聞こえる。また、中国語の“想”は思考活動だけを表し、「～したいと思う」のように遂行までは表せない。

(48) 私は野中さんに一つ確認的に質問をさせていただきたいと思います。(国会会議録 1999)

筆者訳1: 请允许我向野中先生确认一个问题 (無翻訳)

筆者訳2: 我想向野中先生确认一个问题。

(49) さっそくですが、ここで田中さんに乾杯の音頭を頂戴したいと思います。
(<http://r.gnavi.co.jp/g-interview/entry/g-mag/000755#a1>)

筆者訳1: 现在有请田中先生在这里致祝酒辞 (無翻訳)

筆者訳2: 现在我想有请田中先生在这里致祝酒辞。

5. 今後の課題

本研究では主に「思う」1人称主語で完成相(スル・シタ)を対象として分析した。以下のような用例はほとんど考察できなかった。例(50)のような「思う」テンス・アスペクトに関わって、主語の人称制限について課題として残った。さらに、例(51)と(52)のような「思う」の受け身形と否定形による翻訳の違いが観察された。すべて今後の課題である。

(50) 警察は私と佟子が犯人だと思っているのだ。(映島巡 『ダミーフェイス』)

(警察 ×想 / ?觉得 / 认为我和佟子是凶手。)

(51) 万里長城は世界遺産だと思われている。(作例)

(万里长城被 ?想 / ?觉得 / 认为是世界遗产。)

(52) 彼が犯人とは思わない。(作例)

(我 ×不想 / 不觉得 / 不认为他是凶手。)

6. まとめ

以上、本研究は日本語の認識動詞「思う」の構文タイプと中国語との対応関係を記述した。以上の分析をまとめると、表2のようになる。

表 2:「思う」の構文と中国語の対応関係

分類			対応関係
分類	下位分類	構文形式	対応する中国語訳
知的認識		抽象名詞／人名詞ヲ 思うト	想到…
感情評価		名詞ヲ感情評価形容詞 思う	①「彼のことを羨ましく思う」 他 V 羨慕 (彼のことを羨む) 無翻訳 ②「そのことを申し訳なく思う」 那件事 adj 抱歉 觉得／感觉 觉得／感觉
比喩的認識		① Aヲ Bノヨウニ思う	把構文に訳す、「当」は「思う」に相当する
		② Aガ 節ヨウニ思う	無翻訳の傾向(感觉／觉得をつけても自然)
不確かな断定		節ヨウニ思う	感觉／觉得／(想／认为)
不確実表示	中立的な判断	AハBダト思う	觉得／认为／想／(感觉)＋表示中立判断の小句 引用節の内容が未来の場合、想＋会／可能
	回想	(記憶内容)節ト思う	想／记得＋回忆内容
主観明示	蓋然性の判断	(蓋然性のモダリティ)節ト思う	無翻訳が多い
	評価	(評価的な態度)節ト思う	觉得／认为／想／感觉＋表示评价の小句
意志・希望		…シヨウ/シタイト思う	想…
遂行報告		…シタイト思う	無翻訳

上の表から分かるように、まず、日本語の「思う」の多くの用法に対応している動詞は中国語の“想”である。“想”は、「知的認識型」「中立的な判断型」「回想型」「評価型」と「意志・希望型」に対応している。「知的認識型」は認識主体がヲ格の認識対象に対する思考活動を行うタイプである。「中立的な判断型」「回想型」はいずれも「不確実表示型」に属し、認識主体が「と思う」を用いて不確実な認識であると表示している。「評価型」は個人の意見を明示するタイプである。「意志・希望型」は認識主体の頭の中で望むことである。要するに、中国語の“想”は直接的な知覚・体験に関わる世界を表さずに、あくまでも認識主体の想像世界・思考世界を表現していると言える。

一方で、感情評価型、比喩的認識型、蓋然性の判断型、遂行報告型には“想”が用いられない。このうち、感情評価型②と比喩的認識型②は“觉得(感じる／思う)”を用いるという点で共通している。中国語の“觉得”は、主体の思考よりも知覚・体験や感情を表す動詞である。感情を表現する感情評価型②と主体の知覚体験に基づく認識を表す比喩的認識型②に馴染みやすい。これは“觉得”が認識主体の直接体験した感覚感情から思考プロセスを経て下す判断までを広く表すことができるからだと考えられる。

また、蓋然性判断型と遂行報告型は、“想”だけでなく、「思う」の訳語のいずれも用いられない点で共通している。この2つのタイプにおける日本語の「思う」は、いずれも聞き手への配慮を表すものとして機能している。この場合、聞き手への配慮を述語で表現することがない中国語で

は翻訳されないことになる。

参考文献

- 泉原省二(2007)『日本語類義表現使い分け辞典』研究社。
- 奥田靖雄(1968-72)「を格の名詞と動詞との組み合わせ」『教育国語』12, 13, 15, 20, 21, 23, 25, 26, 28号(再録:言語学研究会編1983『日本語文法・連語論(資料編)』むぎ書房 本稿のページ数はこの1983を採用)。
- 黄婉婷(2009a)「中国語のモダリティ機能への試論—知覚動詞“想”をめぐって—」『日中言語研究と日本語教育』(2), pp. 53-62.
- 黄婉婷(2009b)「“想”“觉得”の意味分析」『日中言語対照研究論集』(11), pp. 165-177.
- 国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞—用法と実例—』秀英出版。
- 志波彩子(未公刊)「知覚動詞『見える』の構文タイプとネットワーク—構文とネットワークによる言語記述の可能性—」。
- 孫樹喬(2011)「中国語の思考動詞「想」について」『神戸市外国語大学研究科論集』14.
- 孫樹喬(2014)『意志表現をめぐる日中対照研究』神戸市外国語大学博士学位論文。
- 高梨信乃(2010)『評価のモダリティ』くろしお出版。
- 高橋圭介(2007)『現代日本語における思考動詞の意味分析』名古屋大学博士学位論文。
- 林佩怡(2007)「中国語母語話者による『ト思う』の習得研究」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』2, 東北大学高等教育開発推進センター, pp. 97-111.
- 前田直子(2006)『「ように」の意味・用法』笠間書院。
- 宮崎和人(1999)「モダリティ論から見た「～と思う」」『待兼山論叢. 日本学編』(33), pp. 1-16.
- 宮崎和人(2001)「動詞「思う」のモーダルな用法について」『現代日本語研究』(8), pp. 111-136.
- 森山卓郎(1992)「文末思考動詞「思う」をめぐって—文の意味としての主観性・客観性—」『日本語学』(11-09), pp. 105-116.
- 森山卓郎(1995)「推量・比喩比況・例示—「よう／みたい」の多義性をめぐって—」『日本語の研究:宮地裕・敦子先生古希記念論集』, pp. 493-526. 明治書院。
- 森山卓郎(2000)「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」『モダリティ』岩波書店。

使用コーパス

現代日本語書き言葉均衡コーパス (データバージョン 2020.02)

中日対訳コーパス (『李光赫編:日中文学作品対訳コーパス』現代日本小説100部篇)

注

- ¹ 「知的認識型」は志波(未公刊)に倣ったものである。奥田(1983)は「知的なむすびつき」と呼んでいる。
- ² 「蓋然性判断型」は森山(2000)に倣ったものである。
- ³ 「遂行報告型」は林(2007)に倣ったものである。